令和4年度　第1回　学校評価アンケート集計　　あずま小学校

設問	評価項目	対象	A+B(%)	目標値	総合	改善の方策
1	学校の様子がわかる	保護者	95	90	A	今後も学校だより、学年だより、学級だより、保健だより等で教育活動や子どもの変容などの情報を定期的に発信したり、連絡帳を活用したりして、学校での様子が伝わるようにする。また、一斉メールによる連絡の充実、徹底を図る。あずま小ホームページの内容の充実を推進し、保護者が学校の様子を確認できる機会を増やす。
2	諸行事・懇談会に出席している	保護者	90	80	A	授業参観を行い、教育活動を参観できるようにする。事前に授業や懇談会の内容を知らせ、保護者の関心の高い内容を扱ったり、話題を提示したりすることで、参加を促す。
3	学校は相談等に適切に応じている	保護者	92	90	B	保護者へ迅速かつ適切に連絡を取り、傾聴し、ていねいに対応するよう心がける。学年職員や管理職への報告・連絡・相談をこまめに行う。
4	授業がよくわかる 英語の学習を、児童が意欲的に取り組めるよう指導している	児童 教師	児93 教88	90	B	教師アンケート　授業　96%　英語について80% 英語主任や英語専科、ES、ALTと連携し、モジュール指導の教材等を共有するなどして、担任が自信をもって指導にあたれるようにする。C4th等を活用して、モジュール案等の情報を共有する。
5	テスト(国・算)の通過率が80点以上である	テスト 正答率	85	80	B	※国語83　算数　90 児童の実態を把握し、専科による指導や教科分担制等を充実させ、質の高い学びを支える。学習内容の定着・習熟と次の学習への意欲付けを図る。
6	児童の変容の記録を集積するなどして多面的な評価に努め、支援や励ましを行っている。	教師	96	90	A	評価についての研修を行ったり、学力向上だより等を発行したりして、情報共有を行い、指導と評価の一体化に努める。(「評価の在り方ハンドブック」や、各教科の「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」等も参照) 学年会等を活用し、定期的に評価の仕方について意見交換・共通理解を図る場を設ける。また、単元における評価を焦点化するなど、支援の方向性を明確にしていく。
7	宿題・自主学習などの学習習慣が身に付いている。	児童	94	90	B	保護者72　　教師96 「家庭学習のすすめ」を参考とし、児童に自主学習の取組を啓発する。また、家庭学習の優れたノートをクラスに掲示したり、通信等で紹介するなどして、「言われてやる」のではなく、「自分からやる」を意識して取り組めるようにする。
8	児童はすすんであいさつできる	児童	90	80	A	保護者75　　教師96 「あかるく、いつも、さきに、つづける」を合い言葉に、児童会による「あいさつ運動」や朝の放送を活用しながら、日常的に意識して生活できるようにする。学校だけでなく、お家の人や地域の人にもできるように、学校でできるようになったことを認めていく。
9	児童は時と場に応じた言葉遣いができる	児童	94	80	A	教師がTPOに合わせた挨拶や言葉遣いを率先して実践し、子ども達に働きかけていく。
10	児童は「学校が楽しい」と感じている	児童	90	100	C	児童一人一人の自己有用感や学力を保障し、友達と好ましい人間関係を築けるよう支援する。QUの結果を分析し、居心地のよいクラスとなるよう、指導に活かす。タブレット端末の導入も含め、「できないこと」に目を向けるのではなく「新たにできること」を児童と一緒に模索していく。
11	いじめがない、いじめは解消されている	児童	95	100	C	毎月のアンケート調査を学年で共有し、望ましい人間関係の育成を図る学年・学級経営を行う。いじめの早期発見、早期対応に努める。QUの結果を分析し、個に応じた手立てと全体に向けた手立てを実践する。自己肯定感・効力感・有用感を大切にする学級経営に努める。
12	児童はけんかやいじわるをせずに、仲良く過ごしている	児童	93	80	A	道徳教育や学級活動等の充実を図り、望ましい人間関係の育成を図る学年・学級経営を行う。
13	児童は「あずま小　生活の約束」を守っている	児童	95	80	A	「あずま小　生活の約束」を掲示し、折にふれて意識づけ、進んで守り、実行できるように指導する。児童集会の場で、生活目標を確認し、意識化と振り返りを実践する。
14	児童は家でお手伝いをしている	児童	80	80	B	教師76 生活科や家庭科での学習を活かした家庭学習を有効に活用し、意図的に家庭における児童の役割について考える機会をもつ。家庭との連携をきめ細やかに行い、お手伝いの意義を知らせる。簡単な内容のお手伝いから取り組めるようにし、習慣化を図る。
15	間違った行動に対して、教師はきちんと対応してくれる	児童	97	80	A	家庭との連携を図り、個々の特性に応じた指導をするとともに、「いけないことは、いけない。」と、毅然とした姿勢で指導をする。場合によっては、一人の教師だけでなく、学年等で複数で指導を行えるようにする。
16	児童は毎日朝食を摂っている	児童	97	90	A	学級活動等により朝食を摂るメリット等を学ぶ機会を設ける。朝の健康観察の際、元気のない子に個別に声をかける
17	児童は十分な睡眠が取れている。	児童	88	80	B	学級活動等により睡眠によるメリットや、寝不足によるデメリット等を学ぶ機会を設け、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣づくりを支援する。養護教諭と連携し、保健委員会が放送や掲示物等で全校児童に呼びかける場を設定する。
18	児童は外で遊んだり、体を動かしたりしている。	児童	83	80	B	教師88 晴れている日には、元気な子は、休み時間に外で安全に遊ぶよう声かけをしていく。担任が一緒に外に出て遊ぶ機会を増やす。体育の授業との関連を図り、休み時間にも運動(練習)に取り組めるようにする。(鉄棒、縄跳びなど)
19	学校は、安全確保・環境整備に努めている	教師	100	80	A	定期的な安全点検を継続し、危険個所などがあった場合はすぐに改善できるよう努める。栽培委員会を中心に、学級園や花壇の手入れを定期的に行う。絵画等の掲示を行い、潤いのある学習環境にする。
20	学校は安全教育の徹底を図っている	教師	100	80	A	避難訓練が、より実践的な訓練となるよう計画し、避難訓練の様子を振り返り、改善策を考えていく。事前・事後の指導も計画的に行うようにする。
21	学校は家庭・地域と連携して、通学路点検やパトロールを行っている	教師	88	80	B	保護者や職員による安全パトロール、通学路の点検を実施する。一斉メールを活用し、情報を共有し、連携しながら指導していく。児童の交通安全が守れるよう、地域と連携して、児童の登下校の交通指導にあたる。定期的に通学路点検を行う。
22	児童は将来の夢や希望について考えている	児童	74	80	C	教師92 道徳や学級活動、総合的な学習の時間を通して、将来について考える機会を設ける。系統的なキャリアパスポートを作成・活用し、将来について継続的に考えたり、その足跡を残したりできるようにする。
23	将来の夢や希望について親子で話し合う機会を設けている	保護者	76	80	C	教師84 キャリアパスポートを活用し、児童が将来について書いた文章やワークシートなどを、家族で読んだり見たりする機会を意図的に設け、通信等で呼びかけを行う。また、子どもたちのよさを認め、自分に自信をもち、希望がもてるようにする。
24	学年経営案に基づき、教育目標の具現化に努めている	教師	100	90	A	学校経営方針や重点目標、努力点をふまえ、全校一致の指導体制をとる。
25	教育課題や授業改善に向けて、意見交換できる人間関係になっている	教師	92	90	B	学年会を定期的に実施したり、教科部会を適宜開催したりするなど、日々の指導に生きる情報交換や意見交換を推進する。管理職参観の様子をまとめたものを職員間で共有し、互いの頑張りや良いところに気づけるようにする。あずま勉強会(OJT研修)の中で、悩みを相談しあえる研修を行う。一人で悩まないよう、職員の様子を見ながらお互いに声がけをしていく。
26	専門職としての資質向上、指導法の研究に努めている	教師	100	80	A	各学期末に児童・職員向けに教育実践に対するアンケートを行い、振り返り、改善していけるようにする。ICT推進部によるミニ研修を充実させ、情報を共有し、指導の工夫や改善ができるようにする。
27	職員会議が議題検討や意見交換の場になっている	教師	92	80	A	校務分掌担当や各種部会等からの提案は、検討する内容を明確にし、討議が効率的に進められるようにする。
28	学校評価に基づき、共通理解のもと、改善策を具体化している	教師	84	80	B	学校評価アンケートの結果から本年度の課題を明らかにし、学校通信等で保護者にも知らせ、全校で共通理解・共通実践に努める。
29	校務分掌の編成は適切で、調整・連携は適切に行われている	教師	88	80	B	年度初めに校務分掌調整会議を設け、職務内容を明示したうえで役割分担を行い、見通しを持って主体的に校務分掌の仕事ができるようにする。具体的な内容が分かるように、データや紙媒体などで分掌の引継ぎを行い、次年度に向けて資料の蓄積を図っていく。
30	服務規律を意識し、信頼される教師・信頼される学校づくりに努めている	教師	100	90	A	職員会議等で服務規律委員長の提案をもとに、チェックリストを活用して月ごとにチェックを行い、教職員の意識を高める。
31	年間指導計画をもとに、1時間ごとのねらいを明確にした授業実践に取り組んでいる	教師	100	80	A	学年会等での教材研究を充実させ、実践を重ねながら年間指導計画に沿った授業実践に取り組むとともに、年間指導計画の改善・充実に努める。
32	校内研修を通して、指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている	教師	100	80	A	研修主任や学力コーディネーターから提案された事例をもとに、共通理解・共通実践を行う。伊勢崎GIGAALスクール構想の実現に向け、ICTの活用の推進と基本スキルの指導を計画的・継続的に行い、実践等を共有する。授業研究会では、改善策を中心に協議し、授業者以外の日常の指導内容・指導方法の改善につなげられるようにする。
33	研修組織の運営・研修会の実施は適切である	教師	96	80	A	校内研修企画委員会・推進委員会・全体会と、段階を踏んで協議していくことにより、内容の充実を図る。職員にアンケートを取り、必要感のある校内研修の計画を作成・実行していく。
34	データファイルの共有化がなされ、業務の効率化が図られている	教師	84	80	B	業務の効率化を図り、関連する分掌との連携を図るために、文書記録やデータファイルを互いに共有できるようにする。校務支援システムの研修に努める。
35	個人情報の保護と管理が適切に行われている	教師	100	100	A	「個人情報取り扱い申し合わせ事項」による個人情報の取り扱いを徹底する。服務規律の遵守を意識し、絶えず個人情報保護の意識をもって行動する。職員会議で、「個人情報の保護と管理」の重要性について定期的に確認できるようにする。
36	地域人材・施設を効果的に活用した授業実践をしている	教師	88	80	B	感染症予防対策をとり、学習支援ボランティアを効果的に活用したよりよい教育課程の充実を図っていく。

総合評価基準　A:目標値＋10%以上(目標値90%のものは＋5%以上)　B:目標値＋10%未満　C:目標値－20%未満　D:目標値－20%以上